

リーダーシップ研修 実施報告書

【日時】令和2年7月17日（金）13:00～14:30

【場所】岐阜薬科大学 zoom によるオンライン開催

【講師】下郡 智美 氏（理化学研究所脳神経科学研究センター 脳発達分子メカニズム研究チーム チームリーダー）

【演題】発達期の環境や経験によって変化する脳機能

【参加者数】82名（うち女性研究者 7名）

岐阜薬科大学 76名、岐阜大学 1名、岐阜女子大学 3名、
アピ株式会社 2名



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今回は zoom を利用してオンラインで実施した。サインインも問題なくでき、無事に開講できた。この講演会は大学院特別講義および4回生講義との合同開催とした。

講演会では、講師が研究者になるまでの道をお話しいただきながら、その時々に関わってきた研究について話していただいた。親の仕事の都合で幼少期から中学生までアメリカ、イラク、日本で生活をし、途中イランイラク戦争まで体験した。日本の薬系単科大学を卒業するときに自分を見つめ直したところ、研究への興味が出てきたため大学院へ進学した。院生時代に10報以上の論文に貢献した経験から、時間をかけて多く働かないと論文にはならないということを実感したという。

大学院生時代に教授の指示で嫌々取り組み始めたことを続けているうちに、関連したことに興味を持ち始め、研究を続けたいと修了後にポスドクとしてシカゴ大学に留学した。同時期に日本の3つのラボが同じ研究に取り組んでいたことが学会で判明したが、その後いずれの研究室も論文を発表でき、そのときに開発された技術が20年後の現在も使われており、一過性でない開発に携われたことに誇りを感じていると話された。

帰国後は理化学研究所に入所し、16年が経ち、研究チームリーダーとして25人以上の大所帯をまとめている。自分自身の興味を大事にして、能力を発揮できる場所を自分で探して行動する生き方は学生や若手研究者に大いに刺激になったと思われる。



自分の思う通りにならないとしても、興味あることを続けるためにはPIになることが手っ取り早く、そのためには勉強をして生きる環境を探して進むということが必要である。

アンケート結果からも、自分の興味があることを勉強を続けていく、研究を続けていく心構えを聞くことができ、有意義であったと学生も感じており、薬剤師資格取得後に大学院進学から研究者になった体験談は多くの学生にも刺激になったと思われる。